

県指定 有形民俗文化財

## 切支丹柄鏡



この柄鏡は、長瀬区の佐保家に代々伝わってきたもので、材質は青銅で柄の長さ8.5cm、鏡体は直径11cmある。江戸中期以後の作と推定されるが、紋様が特異なもので、中心部に○に十字を鑄出し、これを挟んで上下に一見不可解な紋様があり、縁に沿って図案化された植物を配し、「天下一上村大和守」という作者名らしきものがある。この柄鏡については諸説あるが、これは隠れキリシタンが信仰の偽装物として、この前でオラシオ(祈りの言葉)を唱えていたとする説もある。